

# 「主体的、対話的で深い学び」を追求する授業づくりを通じて育まれたこと

——特にソフト・スキル、非認知能力とよばれるものに着目して——

法政大学キャリアデザイン学部兼任講師 遠藤 裕子

## 【1】問題と目的

2019年度に法政大学中学高等学校の石川秀和教諭(以下、石川)と中学1年生の社会科の授業で『『主体的、対話的で深い学び』を追求する授業の試み』をテーマとして共同研究を行った(遠藤2019)。石川の「教師が講義を行い、教師との対話があるものの、基本的に生徒は話をきくことが中心の一斉授業になることが多い。生徒が受け身になっていることへの悩みが強くある」「グループワークなどを取り入れてはみるが、うまくいっているとは言い難い。時にはグループワークをやりたくないという生徒も出てくる」という課題に依拠し、特に「対話的」に重点をおいて研究を進めた。共同研究の詳細は2019年度法政大学教職課程年報Vol.18に掲載された拙論を参照していただきたい。

スタートにあたっては、生徒になぜ授業に対話を取り入れるのかとロジャーズのカウンセリング理論をベースに作成した「対話のグランドルール」(授業では「対話の仕方」と表現)を丁寧に説明した。「対話のグランドルール」は法政大学で筆者の教育相談の授業を受講した学生が銘々したものである。「対話の仕方」は、スタート時はもちろんのこと、その後も機会あるごとに確認し、生徒が身につけていけるように丁寧に取り扱った。授業の共同研究はひとまず1年で完結したが、2年時、3年時とさまざまな場面で活かされている様子をうかがい知ることができた。

当時(2019年度)中学1年生だった対象学年は、現在(2022年度)高校1年生になっている。3分の1程度は受験をして高校から入学してくる生徒(高入生と呼ばれている)であるが、担任の教員から「高入生を気遣う様子が見られ、クラスの雰囲気が優しい」という声や生徒会指導の教員から「話し合いがうまくできる」という声が学年スタート時より聞こえてきていた。ここでは特に、共同研究を含む中学3年間の対話を大切にしたい諸々の取り組みが、そうしたソフト・スキルや非認知能力とよばれるものを育てることにつながっていたのではないかと仮説を立てて検証を試みる。

## 【2】方法

1. 対象学年生徒へのアンケート(中学3年時に実施)

2. 対象学年担当教員へのアンケート  
3. 共同研究者である石川による振り返りをもとに考察する。アンケートの結果と石川による振り返りは巻末の資料にまとめる。

## 【3】結果と考察

### 1. 対象学年へのアンケートの結果に基づく考察

対象学年は4クラス各クラス35名(140名)、アンケート実施日は2021年3月11日である。修学旅行明けの学年集会(時節柄リモート)に出席した123名を対象に実施し、全員から回答を得た。

設問1「授業で学んだ「対話の仕方」をどの程度活用できたか」に対する回答を資料1のFigureに示す。123名全員の回答が得られた。「大変活用できた」が27名(22%)、「まあまあ活用できた」が83名(67.5%)、「どちらとも言えない」が11名(8.9%)、「あまり活用できなかった」が2名(1.6%)、「活用できなかった」は0名(0%)であり、89.5%の生徒が何らかの場面で活用できたと回答し、設問2で具体的な場면을記述している。「あまり活用できなかった」とする生徒の具体的な場面での記述は「あたり前にやっていることだから意識していない」というような内容で否定的なものではないと解釈できる。

設問2「具体的な活用場面や役に立った場面」についての記述を資料2の表1に示す。120名の回答のうち、「グループワークの時」「話し合いの場面」といったものを除き、より具体的に記述された77名分を抽出した。さらに「非認知能力とよばれるものが育まれたのではないか」と思われることに関連する記述15人分を以下に記載する。001.相手の気持ちを考えてから、007.相手の意見をしっかりと尊重、014.後輩に優しい言葉で会話、018.日頃から天使言葉、030.相手の話をさえぎらない、032.人に思いやりをもって言葉遣いに気を付ける・弟でも誰でもあたらさない、034.相手のことを考えて会話、041.相手の話を遮らないように、045.友達の話最後まで聞いてから自分の意見を言う、052.まずは相手の話を聞いてから客観的に意見を言う、053.どの人にも寄り添って優しい言葉を使えるように、063.反対の意見を言うときに天使言葉に注意、068.口を挟まないで聞く・人の話を否定的にみない、068.肯定的に会話する、071.言葉遣いに気をつける、

072. 人の話をしっかり聴くということ、が挙げられる。

設問3「3年間で成長したことを教えてください。\*ソフト・スキルの視点から」に対する回答を資料2の表2に示す。119名の回答のうち、「対話の仕方」を学んだことと直接関連がないと思われるもの（例：計画を立てるのが上手くなった）を除き、104名分を抽出した。さらに「特に非認知能力とよばれるものが育まれたのではないか」と思われることに関連する記述31人分を以下に記載する。005. 人を傷つけないような言葉遣い、008. 人に対する口調に気をつける、009. 優しい言葉遣い、010. 感じの良い話し方やコミュニケーションの仕方、011. 積極的にみんなとコミュニケーション、017. 言い方に気を付けるようになった、021. 最後まで聞くように心がけた、022. 相手を思いやることの大切さ、023. 言葉を選んで相手のことを考えて話せるようになった、028. 人の意見をきちんときいたりなるべく優しい言葉で喋ること、035. 相手のことを考えて話したり意見の言い合いをすることができるようになった、039. 思っていることや意見がちがっても否定せず肯定すること、040. 他人の話丁寧聞くようになった、045. 人の気持ちを考えながらワードを選びながら話すこと、047. 相手の気持ちを考えるようになった、048. 人の言うことに聞く耳をもちそれを吸収すること・思いやり、053. 他人の意見も取り入れ納得する回答ができるようになった、055. しっかりと相手の表情を見て会話すること、062. 相手の話を聞こうと意識するようになった、063. 相手の意見を尊重したコミュニケーション、067. 言葉遣いが優しくなった、068. 相手が傷つか嫌な思いをしないか一度考えてから言うようになった、069. 3年間で相手の意見をまず聞くことが出来るようになった、078. 相手のことを考えたり思いやりたりできるようになった、082. 相手の話最優先に、085. 人の話を以前より集中してその場で深く理解しながら聞けるようになった、089. 人の声色で悲しそうとか喜んでそうとかイライラしてそうとかの感情に気付くようになった気がする、094. 少し丁寧な言葉を心掛けるようになった、096. 相手の気持ちを考えて発言することができるようになった、097. 誰かが発言中に自分が何か言いたくなくても最後まで話を聞くことの大切さを学ぶことができた、098. 公の場（人の前に立つ時）で感情のままに行動や発言をできるだけしないように気をつける事ができるようになった、100. 相手の意見を尊重するようになった、がそれにあたると言える。

## 2. 対象学年担当教員へのアンケートに基づく考察

1名（A教諭とする）から回答があった。A教諭はクラス担任として中学1年から中学3年まで持ち上

がった。設問1に関して、アンケートをふまえて話を聴いたところ、話し合いなどの際、生徒の間で「最後まで意見を聞こう」「天使言葉を使おう」という言葉かけができていたとのことであった。設問2に関しては、A教諭が過去に担当したクラス（学年）との比較による記述がある。「対話の仕方」が定着し、問題が生じた場合でもそれを活かして解決できるようになっていることが伺える。また「まずは相手を認める姿勢が学年を追うごとに基本姿勢になっていたように感じる」とあり、1年時の共同研究の取り組みが3年間を通じて継続され、定着したと言える。設問3への回答では、これまでの「コミュニケーションの仕方」についての取り組みもふり返り、「全クラスを対象に同一の取り組みを行ったことにより学年全体がムラなく、コミュニケーションに対して同じ問題意識を持ち、実践し、相互に成長することができた」としている。さらには今後の取り組みへの提案がなされており、生かしたいところであると考ええる。

## 3. 石川のよるふり返りに基づく考察

1年時の共同研究者である石川の記述をもとに考察する。石川は教員になって15年目（当時）である。授業時間の50分を教員主導で展開していくスタイルを確立してきたことを冒頭の記述からうかがい知ることができる。「授業の内容に関心を持ってもらうため、導入の部分には特に力を入れ、」とあるように入念に授業準備を行い、生徒を引きつけることに力を注いできたのであろう。共同研究を開始した直後の授業の際、石川が時にはユーモアを交えながら生徒に穏やかに語りかける姿や聴き入る生徒たちの様子がとても印象的だった。そのままでも授業は成立していて、石川自身が課題意識をもたなければ大きく変化することはなかったかもしれない。しかし、授業者が主導する授業スタイルを「生徒自身を主体者にしていく」ための挑戦を開始したことで、授業の流れを共有する、ワークシートは生徒が書きやすい方を選択する、個人の取り組みが終って生じる「スキマ時間」を生徒の裁量で活用するといった工夫が生まれている。

「対話的」という視点から、グループワーク（以下、GW）は授業者主導でスタートして、慣れてきたところで徐々に生徒に運営を委ねるというように進めたことがわかる。段階を追って丁寧に進めたことで、「対話の仕方」が着実に身につけていったと考えられ、石川が記述している「生徒が授業者の指示通りに動くことを目的化してしまっていたのではないかと思われるGW」とは明らかに異なると言える。以上のように、「生徒自身を主体者にしていく」という授業者の意識の変化、そのための工夫、GWの丁寧な導入などによって

授業空間が変化したと考えられる。石川は「これまでに比べ生徒が主体的に動いているように感じている。また、お互いがしっかりと聴き合うことで、生徒の力によって対話的な授業空間が創造できたように感じる」と記述している。

冒頭にある「一斉に黒板の方を向き、授業者の「トークとチョーク」による板書のみで50分の授業を毎時間運営し、授業を受ける生徒各自にその内容を深めさせることには限界を感じていた」という状態から、「授業者である自分自身が「待つ」という姿勢を取ることによって、ゆとりが生まれ、こちら側が生徒のことをよく観ることができるようになった分、生徒もじっくりと課題に取り組めるようになっていたのではないかと考えている」「取り組みを生徒に委ねることによって「形」に関わることはもとより、お互いが自身のペースで授業内容に向き合うゆとりが生まれ、学習内容を各自で深めることが可能となったように感じている」と授業者の心情が変化していることの意味は大きいと考える。

#### [4] 今後の課題

共同研究を含む中学3年間の対話を大切にした諸々の取り組みが、ソフト・スキルや非認知能力とよばれるものを育てることにつながっていたのではないかとという仮説を立てて検証を試みた。「対話的に」といっても、ただ「話し合ってみて」では、当初の石川の課題にもあるようにうまくいかず、対話することで傷つき、「グループワークをやりたくない」という生徒が出てくる可能性が否めない。共同研究では、「対話の仕方」を丁寧に継続的に学ぶことに重点をおいた。その結果、考察したように、話し合いへの抵抗感が薄れたり、聴き取られ聴き取ることを通じて、相手を思いやる気持ちなどのソフト・スキルや非認知能力とよばれるものが育まれたりしたのではないかと考える。藤村ら(2018)は、協同的探究学習の主要な目的である「わかる学力」を高めることと同時に、「もうひとつの目的」として自己肯定感の育成と他者理解の深まりを挙げ、「お互いに聴き合い、認め合うような人間関係がつくられていくことが、長期的には「できる学力」や「わかる学力」を支えていくのではないかと考えられる」としている。今回の研究は協同的探究学習と銘打ったわけではないが、ベースには同じ原理、すなわち他者の意見を受容的に聴くことで他者への理解を深め、聴き取られることで自己肯定感を育むということが流れていると言えるだろう。「対話すること」そのものを丁寧に扱い、教育活動全体を通じてあるいはどんな関係性においても育てていくための方策を追求す

ることをこの研究につながる今後の課題とする。

また、石川がふり返りの中で明らかにした、学習の「成果物」に対する評価のあり方や成績評価への反映のさせ方、さまざまな特性をもつ生徒を含むすべての生徒に「分かりやすい」授業をどう展開するのか、授業への関心や学びのモチベーションをどう高めていくのかといった課題を大切に考えていきたい。

#### 参考文献

- 遠藤裕子(2019) 中学1年生社会科の授業で行った共同研究から見えてきたこと——「主体的、対話的で深い学び」を追求する授業の試みを通じて—— 法政大学教職課程年報 2019年度 Vol.18
- 藤村宣之/橘 春菜 名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著 (2018) 協同的探究学習で育む「わかる学力」豊かな学びと育ちを支えるために

## 資料

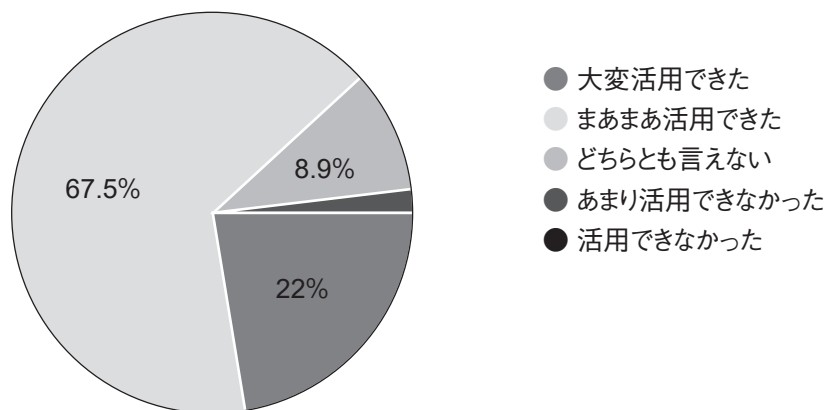
### 資料1 Figure1 対象学年生徒へのアンケート①

#### 設問1

一巡法、傾聴、Imessage、天使ことばをキーワードに「対話の仕方」を学びました。

あなたはどのくらい活用できたと思いますか。\*ひとつ選んでください。

123件の回答



### 資料2 表1 対象学年生徒へのアンケート②

設問2「対話の仕方」を活用できた場面、もしくは役に立った場面を教えてください。

001. 自分で発言する前に相手の気持ちを考えてからするようになった
002. 友達と話すときにやりやすくなりました。
003. 弟と口論になった時もちくちく言葉を使わなかった。
004. 1、2年生の時にクラスの話し合いをまとめる時
005. おばあちゃんのお友達と2人きりになった時に、歳の差がすごく離れていたけれど楽しく話せたこと
006. グループワークでやり方が分からず詰まったときにとても役に立った
007. 学校の話し合いで一巡方を意識することで相手の意見をしっかりと尊重できるようになった。
008. 前までは人が話している途中で割り込んでいたが、最後まで聞けるようになった
009. 他の授業などで班で話し合いなどがあった時に一巡法や人の意見を否定しないということを活かして話し合いをすることができました！
010. 委員会の話し合いで一巡法を活用出来た。
011. ラインの言葉づかいを気をつけるようになった。
012. 相手の話の聞き方やあいづちの打ち方などが参考になりました
013. 意見の相違で話し合った時
014. 後輩の指導をするときに優しい言葉で会話ができました
015. 特に初めましての人とかと喋るときに使いました。
016. 授業中のグループでの会話などで、一巡法を利用することが出来た。
017. 友達と遊びに行く場所を決める時



018. 場面とかではなく、日頃から天使言葉を気にすることができた。
019. グループワークや何かみんなで一つ決めると言った場面で役に立った。
020. 何かを複数人で決める際にスムーズに決めることができた
021. オンラインでのグループワーク
022. 次に誰が話すかを把握している上で対話できるので色々な場面で活躍した。
023. 理解されにくい考えを説明するとき。
024. 友達との会話の時も今まで以上にスムーズになった
025. 文化祭の企画代表者として話をまとめる時などにもものすごく役に立った
026. 授業でのグループワークや友達との会話
027. 友達と話す時に天使言葉を使うようになった
028. 家族と会話する際や、同級生との会話で役に立ちました。
029. 日々の友達とのコミュニケーションをより膨らませることが出来た。
030. どんな時でも人が喋ってる時にはさえぎらないようにした。
031. いろいろな教科でのグループワークなど
032. 人に思いやりを持って言葉づかいに気を付けるようにし弟でも誰でもあたらないようにした。
033. 野球のコミュニケーション
034. 友達と話すときに相手のことを考えて会話することができた
035. 部活で先輩に教える時に、自分が中学1年生の時のことを思い出しながら教えられるようになった。
036. 何か決める時に、常に周りの人の意見を一巡法で聞けるようになりました。
037. 社会の授業ではもちろん、そのほかの授業や zoom の授業でも、自然と一巡法で話し合いが進められるようになった。
038. マスク越しの会話など。
039. 1年生の頃はグループの話し合いなどで意識をして一巡法、傾聴、I message、天使ことばを活用していたら、2年は自然とできていた場面もあったと思う。
040. 級長の仕事
041. 一巡法などを行ったことで、普段話す時に相手のお話を遮らないように意識することができました。
042. 人の話に割り込まないように意識した
043. 学校行事の文化祭や陸上競技大会などでクラス全体で話すことができました。そのときに否定的な意見でなく、肯定しながら話すことが出来た。
044. グループワークをするときに前よりもみんなの意見を聞いて効率よくできた
045. 小学校の時には、友達の話の聞いている最中に突っ込んでいたが対話の仕方を学んでからは友達の話の最後まで聞いてからするようになった。
046. クラスで話し合いをする時に一巡法が役に立った。文化祭で案を出す時など、1度グループで各自で意見を出し合ってからグループの代表者が発表をするというのをした。クラスのまとめ役の人が一巡法でお願いしますと声をかけるとみんながすぐわかった。
047. 相手の気持ちを考えることができた

048. 相手の意見に対して途中で口を挟まなくなった
049. 3年生で級長をしたときにどういえばみんなに伝わるのか考えて発言した。
050. 部活のミーティング等会議等での進行に役に立ちました
051. 授業などで話し合いをする時にまずは相手の話を聞くことで話し合いをスムーズに行うことが出来ました。
052. 友達の相談に乗ったりする時に、一度相手の話を聞いてから客観的に意見を言うことができた
053. 後輩との対話で活用出来た。どの人にも寄り添って優しい言葉を使えるようにできた。
056. 社会の授業では毎回、最初の5分間を使って今社会で起きている出来事について対話する時間があり、その時に役に立った。
057. 授業で、グループワークによって複数で話し合う時。
058. 私は学校の授業のペアワークや修学旅行のルート決めなど対話をする場面で一巡法を活用できたと思います。一巡法を活用することで話し合いがスムーズに進み話の整理がしやすかったように思います。
060. コロナ禍でマスクをしての生活の中で、表情が見えづらい時に心掛けた
061. 友達や家族と何かを決めたりするときに役立ちました。
062. 同輩や後輩から相談を受けるときや、日常生活でおしゃべりするときなど、いろんな場面で活用できたと思います。
063. 鈴掛祭実行委員の時など、反対の意見を言う時、天使言葉に注意しながら言えた。
064. 1.2年生の間に遠藤先生の授業をたくさん受けて、私は3年生の表現のグループワークに役に立ったと思います。他の人が話しているときは口を挟まずに聞けるようになったし、zoomでやった時も自分の意見も言いつつ他の人の意見を肯定できるようになりました。
065. 修学旅行の発表の話し合いなどのあまりしゃべったことのない人との対話
066. 部活の今後の進行についての話し合いを中3でした時など、話し合いをする場面で人の話を否定的に見るのではなく、そういう意見もあるのかと捉えることでより活動の幅や、みんなで協力する力が大きくなったと思います。
067. グループワークや部活での対話形式に一巡法を使う機会が多くなりました。
068. グループワークのときや発表を聞くときに口を挟まないで聞くことができました。また友達との会話の際も否定的に会話するのではなく肯定的に会話することが出来た気がします。
069. 私は〇〇だと思うなど Imessage を使って自分の意見を言えるようになりました
070. マスクで相手の顔が見えないとき、コロナ禍で、会えない友達と電話するとき。
071. 友達話すとき言葉遣いに気をつけた
072. 中3の一年間級長を務めて、クラス全体の意見を一度に沢山聞くことが多く、その中には様々な意見がありましたが、3年間遠藤先生の対話に関する授業を受けたことで上手くファシリテーターを務めることが出来ました。
073. 覚えていません。が、それは当たり前と言え事だからだと思います。いちいち人との会話に一巡法を用いる事はしませんが、発言することを嫌う傾向のある日本人には集団で意見を出す際に効果的な方法だと考えています。
074. 長崎に修学旅行に行った際、山里小学校の原爆資料館で被爆者と一巡法や、天使ことばを意識して管理人の多田由美子さんとお話をする機会がありました。その際に、普段よりも一巡法を意識してコミュニケーションをすることができ、最後には笑顔を見せてくださいました！この経験は遠藤先生が教えてくださったことのおかげです。ありがとうございました！

- 075. 部活で中学三年生同士で話すときに人の話をしっかり聞いた
- 076. 委員会で司会をすることがあったのですが、話している人の意見をしっかり聴くということは出来た。しかし、人の意見をまとめるということはいま出来なかった。
- 077. みんなの意見が聞きやすかった

### 資料3 表2 対象学年生徒へのアンケート③

#### 設問3

3年間で成長したことを教えてください。\*ソフト・スキルの視点から

- 001. ちゃんと会話するようになった
- 002. 受容的コミュニケーション
- 003. 話すことが上手くなったと思います。
- 004. 語彙力が上がりディベートなどがしやすくなった
- 005. 人を傷つけないような言葉遣いができるようになった。
- 006. スムーズに話し合いを進めることができるようになった
- 007. 話し合いをまとめことが上手になった。
- 008. 相手に対する口調を気にすることができました
- 009. 言葉遣いが優しくなりました
- 010. 感じの良い話し方やコミュニケーションの仕方がわかったような気がします。
- 011. 自分から積極的にみんなとコミュニケーションを取れた
- 012. 性別や年齢などの違いを超えて積極的にはなせるようになった。
- 013. 自分の意見を積極的に言えるようになった
- 014. communication 能力
- 015. 話し合いの際に対立が減った
- 016. 自分の意見だけでなく人の意見を取り入れることで意見を変えたり柔軟性が持てた。
- 017. 表情ではなく言葉で伝えないといけないから、言い方に気を付けるようになった
- 018. グループワークで人の意見をしっかりと聞くことが出来るようになったと思う
- 019. 対話する力
- 020. 最初は人とコミュニケーションを取る時目を見ながらが怖い～などがありましたが今は目を見ないとわからないこともあると知り極力見るようにしました！
- 021. 他人が発表をしている時に最後まで聞くように心がけた。
- 022. 相手を思いやることの大切さがわかりました
- 023. 小学校の時と比べて言葉を選んで相手のことを考えて話せるようになった
- 024. みんなの意見を聞いて理解してまとめる事や話す上での言葉づかい
- 025. 相手とのコミュニケーションの取り方や意見の伝え方が三年間を通して成長したと思います
- 026. 聞きかたが上手くなった

027. 普段話さない人でもあまり緊張しないで会話ができるようになりました
028. これを思い出してわざわざできたというわけではないですが、人の意見をきちんときいたり、なるべく優しい言葉で喋ることはできました。
029. 天使言葉など、言葉遣いが成長した
030. 自分と違った意見の人がいた時に否定から入りたくなる時もあるが、意見をしっかり聞いてから考えて自分の意見を言うと言った、しっかりとした「対話」ができるようになったのではないかと思います。
031. 人前で話すことに対する苦手意識が少し薄れた
032. 天使言葉を使った
033. 初対面でも話せるようになった
034. 人と話すことが得意になった気がする。
035. 相手のことを考えて話したり意見の言い合いをすることができるようになりました。
036. 天使ことばをたくさん使えたと思います。
037. 話すタイミングを見計らうこと。
038. 人の話が今まで以上に聞けるようになった。また、自分も要点をまとめるのがうまくなった。
039. 思っていることや意見がちがっても否定せず、肯定すること
040. 他人の話を丁寧に聞くようになった
041. 言葉遣いが変わった
042. 一巡法を知れて話し合いの仕方が分かるようになりました
043. 対話する力
044. 一巡法を活用して、相手の話をしっかりと聞くことが出来るようになったと思います
045. 人の気持ちを考えながら、ワードを選びながら話すことが出来るようになったと思う。
046. 他人のことを考えながら対話するようになった
047. 相手の気持ちを考えるようになった
048. 人の言うことに聞く耳をもちそれを吸収すること、思いやり
049. 話を回すこと
050. 天使言葉を使えるようになった
051. 物事をわかりやすく説明できるようになった。
052. 対話の中で自分との違いだけではなく共通点を見つけられるようになった。
053. 他人の意見も取り入れた、納得する回答ができるようになった。
054. 今まで、話し合いの場で自分の意見を積極的に言えるタイプではなかったけれど、一巡法を学んで、自分の意見を言えるようになった。
055. 会話をするときしっかりと相手の表情を見て会話をすることができた。
056. クラスをまとめる力はついてきたかなと思いました
057. 相手の話をきちんと聞くことを意識することができました
058. 天使言葉が増えたこと



059. 話し合いの進め方がまなべた
060. 人の話をしっかり聞くことができるようになった
061. 1年生の学んでない段階に比べて今は対話の能力がグンと上がりました。
062. 相手の話を聞こうと意識するようになった
063. 相手の意見を尊重したコミュニケーションを取れるようになった
064. 相手の話を最後まで聞く力。
065. 天使言葉の大切さを学び、人の気持ちを考えながら話す事ができた。一巡法を使うことで、グループワークがスムーズに行う事ができた。自分の意見を出す大切さを学び、積極的に意見を言うことが出来た。
066. 一巡法のおかげでスピーチが昔よりできるようになった
067. 言葉遣いが優しくなった
068. 自分の意見を言うときに相手が傷つくか、嫌な思いをしないか一度考えてから言うようになれた。
069. 3年前は自分の意見を優先して自己中心的でしたが3年間で相手の意見をまず聞くことが出来るようになりました。
070. 自分の中で人の意見を消化して落とし込むことが出来るようになった
071. 人と話すことを努力した
072. コミュニケーション能力が向上した。
073. 相手の意見を聞いた時にアイズチや、その意見に対して自分がどう思うかを言えるようになったこと。
074. 今まで生きてきて話し合いについて学ぶことはあまりなく、話し合いはこれからの人生でずっと必要なので学べてよかったです。また、これからも相手の話をよく聞き自分の考えを正確に相手に伝えてられる能力などを伸ばしていきたいです。
075. 話し方や言葉遣いを意識するようになった。
076. 一巡法を活用したことで、話し合いがよりスムーズにいくようになった。
077. 班でしゃべっていてほかの人が話しているとき、意見を挟まなくなった。
078. 相手のことを考えたり、思いやったりできるようになった。
079. 以前はグループワーク中等であまり話せなかったが、自分の意見を言えるようになった
080. 人と会話をするのがあまり得意ではなかったのですが、人の意見を聞いたりすることが楽しくなりました。
081. コロナ禍で人の表情が読みとりにくい生活をしていたので、相手に伝わりやすいように会話すること
082. 自分の話が最優先ではなくて、相手の話最優先になりました。
083. これも鈴掛祭実行委員の話になってしまうのですが、生徒の視点の意見を導入するために工夫して行った。
084. スムーズに会話できるようになった
085. 人の話を以前より集中してその場で深く理解しながら聞けるようになりました
086. 3年間で私が1番成長したと思うところは、人の意見をしっかり聞き入れて自分の意見も言えるようになったことです。
087. 人の話をよく聞くこと。話し合いをスムーズに進めること

088. 部活で先輩、後輩がどう動くか、どうすればよいか、ということをよく考えてここはこれを準備しようということや、こうアドバイスをしよう、ということなど、相手の気持ちを考えて行動することができた。
089. 私の勘違いかも知れませんが、人の声色で悲しそうとか喜んでそうとかイライラしてそうとかの感情に気付くようになった気がします。
090. 主に聞く力が成長したと思います。相手が話しているときは聞くことに専念して相手の考え方などを取り入れる力がついた気がします。
091. 自分の好きなことについてばかり話さず相手のことを考えて話すことを意識できるようになりました
092. 相手の意見を取り入れて自分の意見を交えていい話し合いができるようになりました
093. 今まで以上に人前で話すことに慣れた
094. コロナ禍になって、顔が見えなくなったり、電話ばかりになることで会話しづらくなったけれど、そのおかげで、少し丁寧な言葉を心掛けるようになった。
095. いままで以上に班とかで会議をするとき意見を積極的に出すようにした
096. 相手の気持ちを考えて発言することができるようになった
097. 授業中のみならず、休み時間に友達と話しているときも誰かが発言中に自分が何か言いたくなくても最後まで話を聞くことの大切さを学ぶことが出来ました。また、そのことを意識して実践することが出来ました。
098. 実感がありません。公の場(人の前に立つ時)で感情のままに行動や発言をできるだけしないように気をつける事ができるようにはなりました。
099. コミュニケーション能力が上がったかなと思います！
100. 相手の意見を尊重するようになった
101. コミュニケーションなど
102. 上手く応えられているかは分からないのですが、行事に対する考え方が変わった。行事から何かを得ようと意識するようになった。発表の場面では自分の意見がしっかり言えるようになった。
103. みんなの意見をまとめるスキルが上がった

#### 資料4 表4 対象学年担当教員へのアンケート①

##### 設問1

「対話の仕方」など、教育活動の中で生かされていると思われる場面がありましたら、教えてください。\*思い当たらない場合は「特になし」とご記入ください。

01. 話し合いの中で相手を否定しない、最後まで意見を聞く、天使言葉を使うという生徒間での言葉かけ。

#### 資料5 表5 対象学年担当教員へのアンケート②

##### 設問2

ソフト・スキル(非認知能力)の向上に役立ったと思われる場面がありましたら教えてください。\*思い当たらない場合は「特になし」とご記入ください。

01. 修学旅行の班決めは、小グループに分かれる時に、生徒間の利害が対立して気まずくなることが多々あるのですが、今年度の1組では、相手の立場を考えた上での I message の交換と傾聴の姿勢があり、問題解決ができていたように感じました。その他、行事の話し合いでも、まずは相手を認める姿勢が学年を追うごとに基本姿勢になっていたように感じました。

## 資料6 表6 対象学年担当教員へのアンケート③

### 設問3

\* 思い当たらない場合は「特になし」とご記入ください。その他お気づきのことをお書き下さい。

01. これまで、コミュニケーションの仕方はHRなどで担任が、また各授業を通じて各教員から散発的に指導されてきた現状であったと思います。今年度の学年は、遠藤先生から全クラス対象に同一のお話を授業の中でしていただいたことで、学年全体がムラなく、コミュニケーションに対して同じ問題意識を持ち、実践し、相互に成長することができたと思います。  
コミュニケーションに特化した授業や活動を通年計画に設置され、遠藤先生のような専門の先生にお話しをいただく機会が、さらに増えていくと、生徒も教員も学ぶことが多いのではないかと思います。  
3年間ありがとうございました。先生の優しいお話しのされ方には大変刺激を受けまして、私自身が反省したり、学ぶことが多くありました。今後ともよろしく願いいたします。

## 資料7 石川による振り返り

共同研究に取り組んだ1年間とその後を振り返る

法政大学中学高等学校教諭 石川 秀和

### 1. 授業づくりに関してもっていた課題

これまでの、授業の導入・展開・まとめという流れを1時間の授業中でどのように創っていくのか、とりわけ生徒に授業の内容に興味関心を持ってもらうため、導入の部分には特に力を入れ、授業づくりに取り組んできた。今思い返すと、関心を持ってくれた後の展開や関心を持ちにくい生徒のことや授業に「ついていく」モチベーションを持ちにくい生徒のことはあまり考えられていなかったと考える。そのような中で、生徒が一斉に黒板の方を向き、授業者による板書みの「トークとチョーク」による50分の授業を毎時間運営し、生徒各自にその内容を深めさせることには限界を感じていた。

### 2. 共同研究者（以下、遠藤）の提案を引き取りながら授業者自身が教科の中で取り組んだこと

一番に考えたのは「生徒を授業の主体者にしていく」ということであった。そのためにいくつかの取り組みを試みた。一つ目は授業の流れを冒頭で明確に示すようにしたことである。これにより、生徒が1時間の授業で取り組もうとしているラインナップ（流れ）をよく理解し、自分のペースをつくり、主体的に授業に参加することが可能となるように考えた。二つ目は、授業の内でのグラドルール、とりわけグループワークの際のルールを明確にしたことである。当初は「MIの分析によるグループ分け」（遠藤 2018）を行い、こちらからグループの役割を指定し、作業などに当たるようにした。回を重ね「一巡法」（遠藤 2019）などの流れが定着していくにしたがい、徐々に生徒自身に運営を委ねるようにしていった。三つ目は、授業中は生徒の取り組みやそこから生まれる「化学反応」をひたすら「待つ」ということに徹したことである。反応を

事後に拾って返すことのみが中心の授業から、深めてもらいたい課題を念頭に置いた2問程度に「問い」を絞ることや提供する教材の精選など授業前の取り組みを重視していくスタイルに大きく変わっていった。

また、ワークシートについても罫線があるものとなものを両面刷りで用意し、各自が書きやすい方を選択し、取り組むようにした。個人の取り組みが早く終わってしまった生徒は、自分で出来る課題（自学自習）に取り組むなど、授業中のいわゆる「スキマ時間」の活用も生徒に積極的に委ねた。以上のように各自の書きやすさや取り組みのペースについても授業者が可能な部分で配慮するように心がけた。

### 3. 生徒の成長や変化、それまでの生徒との違いなど

これまでに比べ生徒が主体的に動いているように感じている。また、お互いがしっかりと聴き合うことで、生徒の力によって対話的な授業空間が創造できたように感じる。生徒に主体的に考え行動する力量が備わっていたとしても、授業者の都合やペースで授業を創っていれば、生徒が十分に力を発揮する可能性を奪ってしまうと考える。これまでもグループワークや班による討論に取り組んでいたことはあった。今回の共同研究を通して、これまでの取り組みは、生徒が授業者の指示通りに動くことを目的化してしまっていたのではないかと身を持って感じている。

授業者である自分自身が「待つ」という姿勢を取ることによって、ゆとりが生まれ、こちら側が生徒のことをよく観ることができるようになった分、生徒もじっくりと課題に取り組めるようになっていたのではないかと考えている。

### 4. 成果と課題

授業者のこれまでの授業スタイルは、生徒が課題に取り組むことをいかに「管理」するかが中心となっていた。取り組みを生徒に委ねることによって「形」に

関わることはもとより、お互いが自身のペースで授業内容に向き合うゆとりが生まれ、学習内容を各自で深めることが可能となったように感じている。

課題としては、授業への取り組みをどのように評価していくのかということがある。多くは、事前に「成績評価に反映させるための評価基準」を示し、どのような項目をどういった割合で評価するのかを明確に示してきた。その内容はグループワークでの意見をメモした内容や自分の意見をワークシートに書いて提出してもらうものがほとんどであったが、評価の対象とする「成果物」を文章などで「書いたもの」のみとするのか、それともその他の形で表現したもの（例えば、動画、ポスター発表、パフォーマンスなど）にまで広げるのかが大きな課題である。

また、これまでは「授業者が板書した内容を書き写したノート」を定期試験毎に提出し、成績評価に加味していた。様々な認知特性をもった生徒を目の前にするようになり、「目で見て自分の手で書き取るノートの在り方」を今後どのようにしていくのかも課題としてある。さらには、様々な特性をもった生徒がいる中で、どの生徒にも「分かりやすい」授業をどのように展開していくのか、生徒の授業への関心、学びのモチベーションをどのように高めていくのか、学校全体で考えていかななくてはならない課題であると考えている。

## 参考文献

遠藤裕子(2018) 学生の主体的な学びのために—— Multiple Intelligence 理論、Universal Design for Learning を活用した授業の試み—— 法政大学教職課程年報 2018年度 Vol.17

遠藤 裕子(2019) 中学1年生社会科の授業で行った共同研究から見えてきたこと——「主体的、対話的で深い学び」を追求する授業の試みを通じて—— 法政大学教職課程年報 2019年度 Vol.18